

令和3年度 第1回 『椿カフェ』開催



石井西地区の民生児童委員・介護支援専門員・地域包括支援センターの交流会「椿カフェ」も3年目となりました。今回は、ご近所福祉クリエーターの酒井 保さんの住民歴書とエゴマップのすすめを参考に「支え合いマップ作り」を11月17日（水）に行いました。

朝生田・和泉南・西石井・古川の高齢者4名の方にご協力いただき、自己紹介の後、「住民歴書」という簡単なアンケート項目に沿って、子どもの頃の話や得意なこと、交友関係や趣味、買い物や通院など「自分自身の暮らしぶり」を振り返りながら、地域とのつながりを「見えるカタチ」にしていく「支え合いマップ」を作成していきましました。

また、将来体が弱った時にどうい暮らしをしていきたいかなど今後の変化についても話し合い、どうい支援が必要となってくるかなど、皆さん終始和気あいあいの「椿カフェ」となりました。

※エゴマップとは…

「エゴ」とは「自己」のこと。つまり「自分の地図」という意味です。



ゲートキーパー養成基礎研修

来るだけでホッとできる場所 ころ塾 ☎931-0702

12月23日（木）、NPO法人ころ塾代表理事 村松つね氏にお越しいただき、ゲートキーパー養成基礎研修『人と人をつなぐまちづくり～気づき・つなぐ松山市～』に62名が参加しました。

松山市の現況は、①自殺者数は減少傾向だったが令和2年は88人と増加。②自殺者数は、男性が女性の1.5～2倍以上③令和2年の自殺死亡率は全国・愛媛県より高い④男女ともに40・50歳代が多い⑤原因・動機は、男女とも「健康問題」が最も多いとのこと。全国的にコロナの影響があると考えられますが、様々な要因が複雑に関係して心理的に追い込まれ「心の病気」になった結果と思われます。

不調のサインは、不眠・食欲なし、やる気が出ないが2週間続くこと。食欲や睡眠は生きるための安全装置なので、しっかり寝る、バランスの良い食事で腸の免疫細胞を元気にする、いつも同じ時間に起き朝日を浴びることが予防になるとのことです。

ゲートキーパーの役割は、SOSサインに気づき、声をかける、聴く、必要な支援に“つなげる”ことだと今回の研修で、学ぶことが出来ました。これからは“気づき”を大事にして地域での声かけを行っていききたいと思いました。

ゲートキーパーは、生きづらさに寄り添う人。「一人じゃないよ」を、届ける人。
そして、「あなたがいてよかった」を作る人です。



受賞おめでとうございます

永年勤続民生児童委員表彰・・・石水桂子・梶谷政雄・柴田絹子・白濱直美・杉本末雄
二宮厚子・藤岡京子・松本孝江・松本弘美



編集後記

福祉だより78号をお届けします。年末年始は2年振りに家族や友人と再会し、会食を楽しんだ方も多かったのではないのでしょうか。コロナウイルス感染症は、デルタ株からオミクロン株が主流となり感染者が増えてきました。これまで通り感染対策を継続し、十分注意をしていきましょう。

本誌に関するお問い合わせは、(石井西地区社協会長 高市宅) まで
Eメール :

～石井西 やすらぎの町 愛の町～

石井西の福祉だより

第78号（令和4年2月1日発行）

石井西地区人口	29,208	人
男	13,899	人
女	15,309	人
65歳以上	7,319	人
高齢化率	25.06	%
（令和4年1月1日現在）		

発行所：石井西地区社会福祉協議会

『認知症キッズサポーター 養成講座プラス』開催

石井西地区社会福祉協議会では、令和3年11月4日（木）に地域包括支援センター石井・浮穴・久谷の協力を得て、椿小学校4年生を対象に“やさしさ広げ隊”をテーマに「認知症キッズサポーター養成講座プラス」を実施しました。

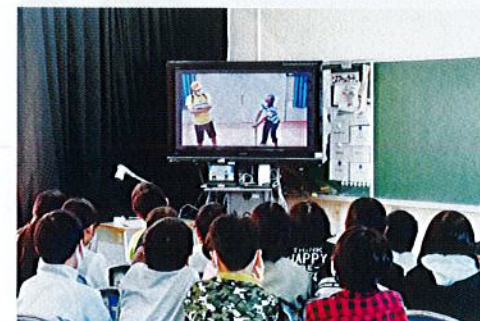
今回は、コロナ禍のため地域包括支援センターと4年生5クラスとをオンラインで繋いだ講座開催となりました。認知症についての説明を聞いた後、「朝ごはんはまだ？」の手作りビデオを視聴。どのように接することが大切かを各クラスで話し合い、どのクラスも活発な意見が飛びかい「認知症」についての理解を深めました。



最後に校長先生出演の「原君とおじいさん」の動画を見てもらい、「あなたならどうしますか？」を私たちからの宿題にしました。認知症を学んでの感想とあわせてご紹介します。

子どもたちからは、「85才以上は、4人に1人が認知症になっているという事がわかりました。」「認知症の人に怒って接すると症状が進むことがわかり、優しくしてあげたいと思いました。」「後ろから急に話しかけたらびっくりしてしまうから、3つの『ない』（①びっくりさせない②いそがせない③きずつけない）のおやくそくを守ったらいいなと思いました。」「原君は、むしをせずやさしく声をかけてあげたらよかったと思います。自分ならどうしたんですかと声をかけ、大人の人に知らせたいと思います。」などなど、「認知症キッズサポーター」として、認知症の人をやさしく助けてあげたい、学んだことを周りに教えてあげたい、認知症だけでなく困っている人を助けてあげたいという使命感を持ってくれたことに感激し頼もしく思いました。

講座の翌日、4年生女子のお母さんから、「うちの娘が、昨日、学校から帰ってくるとすぐに、認知症キッズサポーターのことを楽しそうに一生懸命話してくれたんです。認知症の人の症状とか、どんな風に接したらいいとか、朝ごはんを食べてないって言うおばあちゃんの話とか、校長先生の原君とか、そして、



やさしくしなきゃいけないんだよ、怒ったらダメなんだよって、キッズサポーターになったから困っている人を助けてあげようって。」そう嬉しそうに話していただきました。今回、オンラインでの開催に不安もありましたが、子どもたちには、より深く印象に残る場面が多かったようで、私たちも新しい時代に対応していく柔軟性を持たなければと感じました。椿小学校4年生の皆さんが、今後活躍してくれることを期待しています。

ご注意ください！ 増えています…高齢者の消費者トラブル

消費者庁によると、2019年1年間の消費者被害・トラブル額は、推計で約4兆7000億円。

では、愛媛県内における特殊詐欺の認知件数・被害金額は・・・

2020年 1年間で、 42件・ 9,158万円

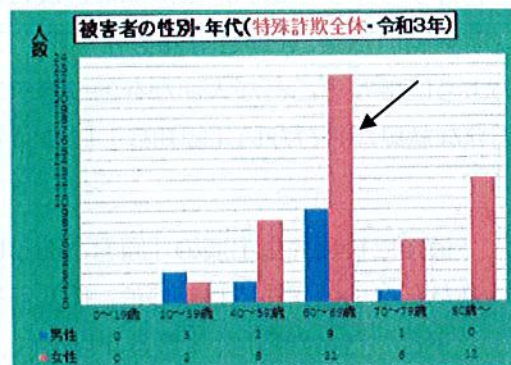
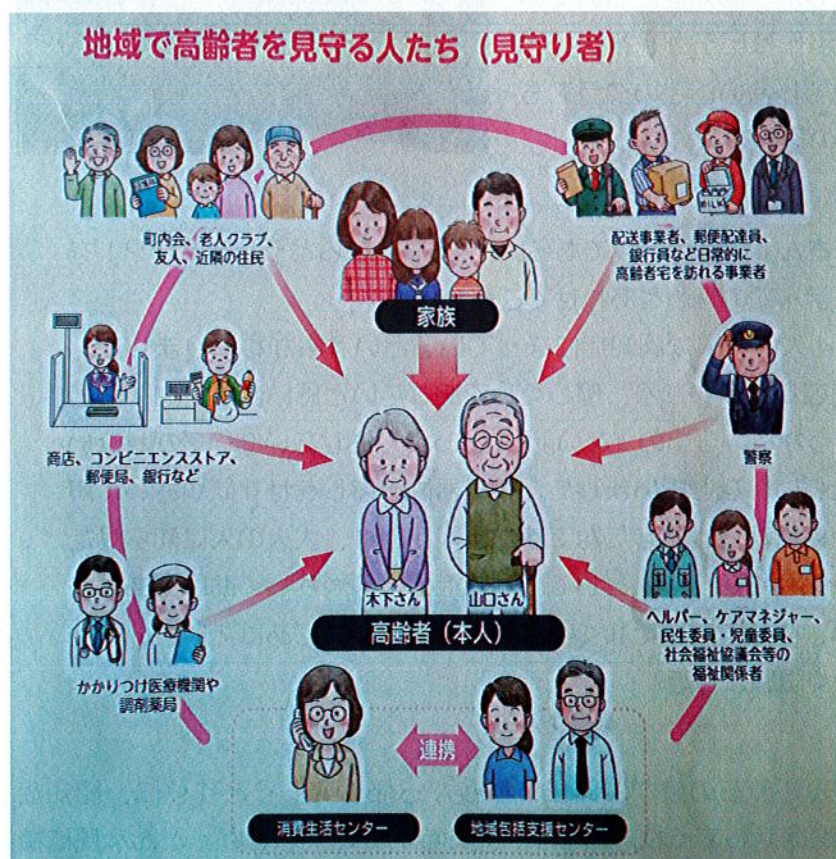
2021年 11か月で、65件・1億7,005万円です。

特に60歳以上の高齢者が狙われています。悪質商法・架空請求などの詐欺的な手口が、ここ数年増加傾向にあり、特に還付金詐欺のATMを使った被害が多くなっています。

高齢者の消費者トラブルを防ぐのは地域の見守りです。

消費生活センターでは、高齢者などの消費者被害を未然に防ぐため、地域全体で見守る「消費者被害見守りネットワーク」を推進しています。悪質商法などによる被害防止のための「消費生活講座」(出前講座)を実施。無料で専門講師を派遣し、消費生活普及啓発団体「松山消費者四つ葉グループ」と連携して、悪質商法や特殊詐欺など消費者トラブルについて寸劇で教えてくれるのでわかりやすく知ることができます。町内会や高齢者クラブ、学校の授業などで「消費生活講座」を利用して詐欺にあわないように地域ぐるみで取り組みましょう。

お問い合わせ先 松山市消費生活センター 089-948-6381



60~69歳の女性の被害が多い。(愛媛県内)



古川の脳トレサロンでも実施しました！

地域みんなで見守りましょう！

- ① 気づき (あれ…?)
- ② 声かけ (何かお困りですか?)
- ③ 相談につなぐ (相談してみませんか?)

消費生活センターへの相談は・・・消費者ホットライン☎188へ

受話器を取ると飛び出すシール差し上げます。包括センターまたは石井西社協にご連絡ください。↑



認知症徘徊高齢者声かけ訓練「声かけようや」開催



12月5日(日)、一の宮団地内での訓練には、松山南署、南消防署、石井西地区社会福祉協議会、松山市地域包括支援センター、松山南交通安全協会一の宮団地住民、椿小学校4年生の認知症キッズサポーターの児童など100名近くの方が参加しました。

9:30から訓練についての説明があり、9:50に声かけ訓練開始の町内放送・松山市社会福祉協議会から行方不明者情報の訓練メール配信(おまもりネット)・徘徊者役8名の「石井熊雄さん」がスタンバイ。グレーのニット帽と黒っぽい手袋を目じるしに「石井熊雄さん」を探して声かけ訓練を開始しました。見かけた方は、前に回り「何か困っていませんか?」と優しく声をかけて話を聞き『声をかけてくれてありがとうカード』を貰ったら本部に電話をかけるを繰り返し、10:30に①番の徘徊者役の「石井熊雄さん」が警察に保護され、声かけ訓練終了となりました。



「こんにちは」まずは普通のあいさつから。



キッズサポーターたちも真剣に声をかけています。



たくさんの声かけ隊に徘徊者役も演技。



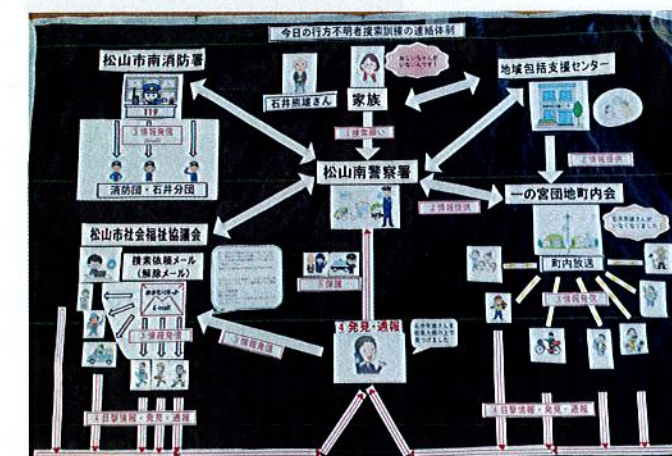
倒れていた徘徊者を救助する訓練も実施。

徘徊役の方にお聞きすると、参加した皆さんが積極的に話しかけてくださり、参加した小学生も意欲的だったとのこと。声をかけてくれる度に、徘徊役の設定を変えましたが、皆さん優しく設定に合った声かけをしてくださいましたと話していました。また、他の地域から参加した方は、「認知症養成講座」を受けて、今日のような「認知症徘徊訓練」を自分の地域でもできたらいいと話されていました。

最後の講評では、「南署管内では、毎日1件は徘徊者の連絡が入り、地域の方が対応している案件もあり、今日のような地域での声かけ訓練はとても意義のあるものです。」「徘徊者の捜索は、人命救助です。倒れていた場合などは、すぐに救急車を呼んでください。しかし、近くの救急車で到着までには平均7分かかる。見つけた方の応急措置が重要になってくる。」などと話されました。

認知症徘徊者の問題は、今後も継続して地域で考える必要があり、今日のような訓練を続けていきたいと思いました。

《行方不明者発見までの情報の流れ》



おまもりネットに登録すると、行方不明者の情報や顔写真が送られてきます。ぜひご登録を！